



第4回復興支援ボランティア 参加者の声（アンケートより）

期間：2011年11月11日～11月14日

参加者数：26名



○今回の活動に参加した感想をお書きください

8ヶ月経ってようやく東北の方の力になったという思いで心がいっぱいです。やったことは小さなことだったと思いますし、もう少しここに残ってお手伝いがしたかったというのが今の思いです。

本当に、お店のお父さんと奥さんの顔が忘れられません。こういう時にボランティアっていいなって感じます。帰って周囲の人たちに伝えたいと思います。

雄勝で有名な硯の手入れ作業をしたのですが、みんなが協力して一つになって活動したことで、なんと硯の汚れ落としを約8,000枚もやることが出来ました。活動の達成感、また現地の人たちの感謝の言葉をもらうなどとても貴重な体験が出来たと思います。

石巻専修大学の坂田学長の「思いなどは何でもよくて、行動することが大事」という言葉は、今回私が参加を決意した理由とも重なってとても印象に残っています。

見て見ぬふりをするかのような8ヶ月をすごしてきて、今ある程度復興した地域を見たときは、少し後悔しました。人々の大変な苦労話をきくたびに、私は8ヶ月間何をしてきたのだと考えてしまいましたが、まだ、元の生活をとりもどせず、苦労をしている人がたくさんいました。支援の手が減りつつある今に、私たちのような活動が大事とされるのだと、考え直すことができました。

今回活動を行った雄勝などの沿岸部など人が少ない地域の復興はまだこれからなんだなと思いました。現地の方の話を聞いたとき、正直驚きました。大きな建物の3階、4階までが浸水したり、自分が歩いていたがれきの下に遺体があったと聞き、僕らが震災後くらしていた8ヶ月では想像できないようなことが現実起こっていたんだな。と感じました。

この小さな一歩を次の誰かの一歩につなげることで、自分たちの一歩はより意味のあるものになると思います。自分で現地の空気に触れ、人に触れることでしか思うことはできなかったと思います。自分や他の人の一歩につながるようしっかりと見たこと感じたことを伝えていきたいです。

1日目、2日目と草むしりと硯の洗浄と周りから見たら軽作業かもしれないんですけどこれらの作業が地域の人々にとったらとても大事なことでと思います。なぜなら、現地の人々にとったら今の現状ではこのような軽作業が重労働だからです。この活動がとても意味があり、少しでも復興のお役に立てたのではないかと思います。現地に行った経験を周りの人に、伝えることが大事ということはその通りであると思います。

今磨いている石が、“雄勝の町の復興につながる”という思いが、自然と僕の手を動かしました。いろんな景色、人との出会い、お話を通じ、得たものはとても大きく、筆舌につくしがたいものがあります。ここで見たもの、得たものを私は決して忘れません。“被災地域には、確かにまだ何も無いところもある、けれど人々は復興を目指して日々頑張っている”ということを周りの人たちに伝えたいです。いつか、復興した雄勝の町を再び訪れたいと思います。

被災者の方々が予想以上に活気があって、こちらが元気をもらいました。仙台別院やボランティア・NPO活動センターの方々には心から感謝しております。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

自分の目で見て自分の足で来て、初めて今回の震災を実感できた気がします。8ヶ月経った今、少しずつ元に戻りつつあることを感じつつも、まだまだ支援が必要であることも分かりました。

前回と比べ町の中の店も元にもどっていたり、活動内容が人々の生活向上の手伝いになるなど、復興の兆しが見えてきてよかった。

今回活動した地域にいた被災した子どもたちが、元気に遊んでいたことが将来今回の体験を語り続けていくことで震災の記憶が忘れられずにいることを願います。

震災から約8ヶ月が経っていたのでだいぶ復興しているだろうと思っていたのですが、少し町を離れると、まだまだ震災の傷跡が生々しく残っていて衝撃をうけた。

今までにボランティアに参加したことがなく、不安なども多くありましたが、今回一緒に行動できた仲間が不安をなくしてくれました。

○今後も何らかの復興支援に関する活動を続けたい理由はなんですか？

今回活動させていただいた雄勝のその後を見たいと思ったからです。また、その他の場所でも活動してみたいと思いました。

実際に現地へボランティアをしに行った身としてできることは、身の回りの人に現地の状況を伝えてあげることなので、このことを、積極的に行いたいと思います。あと、まだまだ復興が完全に終わるまで10年以上かかると言われているため、それ(震災の被害状況)を忘れないためにも、活動を続けたいと思います。

やはりボランティアというは個人ではなかなか難しいということを今回実感しました。なのでまた今後こういった団体参加の機会をいただければ活動に参加したいと思います。

今回、どんなことでも力になれると思えました。これから何か機会があれば、小さいことでもやってみたいと思います。

どんな小さなことでも、相手にとって必要なことを手助けすることの良さやうれしさを、感じたことや坂田学長の、20年の復興活動が必要だとおっしゃっていた言葉がとても印象的だったからです。私自身、もっとやりがいを感じ続けていきたいです。

石巻専修大学の坂田学長もおっしゃっていましたが、活動して見たこと、感じたことを伝えることが大切で、動機は何でも良くて、行動をしたことがすばらしいと聞いたので、引き続き、自分にできることを考えて取り組んでいきたいです。

自分が目の当たりにした石巻が、どのように復興していくのか自らの目でたしかめたい。

世間が震災のことを忘れていってしまうと思うので、気づいた人がそれぞれのやり方で長期的に支援する必要があると思うからです。

今回ボランティアは初めてだったんですが、みんなで一つの目的に向かって何かに取り組むことが、こんなにもやりがいがあるとは思わなかった。またぜひやりたいです。

○どういった活動をしたいと考えていますか？

まだしなくてはいけないことがたくさんあると思うので現地に行ける機会があればやってみたいと思います。現地でなくても伝えることなどできることは、たくさんあると思うのでやっていきたい。

自分の身の回りの人に、自分がした体験談をする。・京都(滋賀)にいながら出来る活動を探し、それを積極的に行う。

被災した町を見て感じたことは、やはり人の気配がなく被害も想像以上にひどいものでした。ぼくたちができることは本当に小さなことからだと思います。直接的にそういう場所に飛び込んで何かをするのではなく、今回の内容のように間接的に貢献できる活動をしたいと思います。

ボランティアに行けないまでも、講演なんかも聞いて理解を深めたいと思いますし、他の人に伝えることを積極的にやりたいと思います。

震災時～今の被災地の状況の変化を多くの人々に知らせる。(復興に関わった世界中の人々の活動や日本のすばらしさについて)理由:私がもっと知りたい!と感じたからです。

募金活動、東北物産販売、直接、復興支援ボランティアを行う。現地の人々の話をきき、伝える。現地の子どもとあそぶ。Etc

募金はもちろん、機会があればまたボランティアとして東北に行きたいと思っています。また、今回の経験を周りの人々に発信し続けていきます。

自分から発信する。見てきたものを伝える。また東北に足をはこびたい。

テレビなどでもあまり報道がされなくなってきているので、自分の親や親戚また友達に今回の活動で自分が感じたことや思ったことを伝えていき、もっと多くの人に知ってもらいたいです。

震災のボランティアだけでなく、身近なことでもよいので積極的に参加したいです。